



# 小浜、笑顔あふれるまちに

## ～笑顔で生活できるまち、笑顔で夢に向かって頑張れるまちを目指して～

市の広報企画番組として、正月にチャンネルOで放送した「松崎市長新春インタビュー」。その内容を抜粋して掲載します。



松崎市長  
新春インタビュー

——新春を迎えて今年の取り組みは。

市長 今年、小浜市にとつていろいろな面で大きな転換期であると考えています。この重要な時期に挑む「課題と施策」については『小浜、笑顔あふれるまちに』をスローガンに、

- 一、安全／安心な暮らし
- 二、地域／人づくり
- 三、魅力ある産業／観光
- 四、賑わいの創出
- 五、効率重視の行財政改革

この五つの公約に沿って、各種の施策に取り組んでいきますので、市民の皆さんのご支援、ご協力をよろしくお願いします。

### 安全／安心な暮らし

昨年は、大きな災害に見舞われた年でした。8月23日に市街地付近で発生した竜巻には非常に驚き、被害の大きさに身がすくみましました。また、9月15日から16日には台風18号による大雨で、全国初の「大雨特別警報」が発令され、注目され

ました。忠野では土砂崩れで家屋が全壊し、口名田では飛川橋が流されるなど、近年には無かった大きな被害を受けましたが、人的被害が無かったことは幸いであつたと考えます。

昭和28年に小浜市に大きな被害をもたらした台風13号災害から、ちょうど60年目でした。「災害は忘れたころにやってくる」と言うことわざがあります。市としてこの大災害を忘れることなく後世に伝えるとともに、市全体の防災力の強化に取り組んでいます。今後は、「自分の身は自分で守る」という「自助」の精神を十分に理解してもらうとともに、日頃から災害に備えることの大切さなど、市民の防災に対する意識向上のための啓発活動や、自主防災組織のリーダーを対象とした研修などを行い、地域の防災力の向上に取り組みます。

小中学校の耐震補強工事については、早期耐震化を進める必要があると考え、

### 地域／人づくり

協働のまちづくりを着実に効果的に進めていくため「協働の基本指針」に基づき、市民活動団体などが安心して地域活動やボランティア活動に取り組むことができる環境づくりなど協働に関する諸施策を積極的に進めています。地域住民



台風18号で土砂崩れにより家屋が全壊した忠野

平成29年度に予定していた当初計画を早め、平成26年度中に、残る中学校の耐震化を完了させます。(小浜中学校の本館と体育館、小浜第二中学校の北館・南館)

に最も身近な公民館を「住民主体の地域づくりの拠点」として位置づけ、小浜市の特色を活かした「協働のまちづくり」を推進していきます。

小学校の統合再編については、地理的な要因なども勘案し、市内12小学校を各学年2クラス300人ぐらいの学校、4校程度に再編する方向で進めています。現在は、遠敷、松永、宮川、国富の4地区の代表の皆さんが集まっていたいただき、まず東部地区の統合小学校建設を目指しています。平成31年4月開校を目指すうえで、今年是最も大切な1年になるものと考えており、関係団体や関係者の皆さんの特段のご理解とご協力をお願いいたします。

市立保育園については、現在、雲浜保育園と西津保育園の統廃合民営化に取り組んでいます。本年度中には水取四丁目の観海寮跡地に、民間に新園を建設してもらい、平成27年4月に開園する予定です。

### 魅力ある産業／観光

雇用の確保については、昨年4月に小浜植物工場(グリーンランド)が操業し、小浜ブランドの工場野菜、特に世界で初めてとなる「結球レタス」が注目を浴びました。12月にはいよいよフル稼働での生産体制に入り、雇用もパートを含め20数名に増員されたと聞いています。また、焼き鯖ずしで業績を上げている若廣においては、昨年5月に新工場での操業が始まり、新たに7名の雇用が確保さ



チャンネルOアナウンサー  
坂口みゆきさん

れました。どちらも食のまちづくりを目指す本市においては、大切な企業です。公約である小浜の風土に合った企業誘致を進めるうえでも重要であり、今後も支援を進め、さらなる発展を願っています。また、昨年7月に新社屋の披露式が行われた日本電産テクノモータは、さらに第2期工事として、現在の新社屋の市街地側に約1万㎡の研究棟を増設する計画があります。今年5月に着工し、平成27年3月完成が見込まれています。この研究棟では約650名の増員が可能となることから、毎年50名以上の増員を目指すとしています。今後、企業側と連携を図りながら人材確保に向け、県や関係機関の協力を得ながら支援したいと考えています。

### 賑わいの創出

平成26年度には念願の舞鶴若狭自動車道、小浜インターチェンジから敦賀ジャ

ンクションまでの39歳が開通し、中京と阪神を結ぶ日本海ルートが完成します。市としては、これを好機ととらえ、あらゆる可能性を考えて対処していく必要があります。さらに将来的には、現在施工中である中部縦貫自動車道の完成による道路網も視野に入れた長期的な見通しを立てて、小浜市の将来像を描いておくことが必要だと思えます。

北陸新幹線の敦賀までの工事着工認可を受け、県内で新幹線建設工事が始まりました。遅くとも12年後には敦賀まで来ることが決まっているので、小浜への延伸に向けて今が正念場です。本市をはじめ嶺南地域の飛躍的な発展を図るうえで、大きな効果が期待される北陸新幹線若狭ルートが、一日も早く全線フル規格で整備されるよう今後も訴え続けていきます。

食のまちづくりについては、昨年12月4日に「和食、日本人の伝統的な食文化」がユネスコの無形文化遺産

に登録されました。和食の魅力を生かす文化館を中心としてこのまち全体で実感していけるよう取り組んでいきます。そして日本全国、世界中から観光客が訪れる観光振興の機会としたいと考えています。



北陸新幹線若狭ルート建設促進総決起大会

### 効率重視の行財政改革

安定的な自主財源の確保には市税収入が大変重要であり、適正な課税、公平な収納に努めています。昨今の不透明な経済情勢の中で、伸び悩んでいます。適切な納税相談などの実施とともに、滞納処分による徴収も強化しています。今後

も、市税収入の適正確保に努めていきます。

行財政改革の取り組みについては、第五次行財政改革大綱の実施計画となる行財政運営プランの第一期の最終年度を本年度としています。第一期での取り組み事業の総括と、第二期に向けての取り組みの設定を行い、最小の経費で最大の効果が発揮できるよう、事務事業のアウトソーシング(外部委託)や施設の統廃合を推進していきます。

※

### ——今年の抱負を。

市長 わたしの公約の冒頭に、「小浜、笑顔あふれるまちに」をスローガンとして掲げています。市民の皆さんが夢を実現していく過程においても「笑顔であってほしい」、また、「夢が実現して笑顔になって欲しい」という思いを持っていきます。

市民の皆さんが笑顔で生活できるまち、笑顔で夢に向かって頑張れるまちを目指して精一杯努力していきます。